



2007 年
1 月号

マックスールプレス

目次

- p1. __インフルエンザについて
- p2. __部署紹介 院内秘書課
病気アラカルト 骨粗鬆症について！



《 異病院2階詰所前に談話室ができました。》

インフルエンザ に気をつけて！



《 感染委員： 武内師長 田中副院長》

インフルエンザについて

寒さが厳しくなると、インフルエンザは流行いたします。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することにより発症する病気です。

感染した人の咳・くしゃみ・つばなどの飛沫と共に、放出されたウイルスを吸うことにより感染します。

マスクの着用や、出来れば咳をされている方との距離を、1.5メートル離れて下さい。

高熱に侵され脱水や肺炎になる事もあります。十分な休息とバランスの取れた栄養を取り、日頃から体力や抵抗力を高めることが大切です。

基本的には他のウイルス対策と同じく、手洗いとうがいが大切です。

自然界でもインフルエンザウイルスは、カモ・アヒルなどの水鳥を中心とした多くの鳥類に感染します。それを鳥インフルエンザと言います。

鳥インフルエンザの中でも、鶏やカモなどが死亡してしまう重篤な症状をきたすものを高病原性インフルエンザウイルスと言います。

基本的に鳥類や卵の生食は避けてください。ハナやノドの粘膜から、直ぐにインフルエンザの検査は出来ます。風邪だと自己判断せずに、咳などの呼吸器症状が有りましたら、早急に診察

を受けて下さい。

本年は当院におきましても、インフルエンザ発症は1件のみです。今後流行する可能性もありますので、十分気を付けてください。

今年の流行株は？

今年の 2006/2007 シーズンの流行については、昨シーズンの世界における患者分離株の分析と、南半球での流行状況も考慮して、A/H1N1(ソ連)型は昨シーズンと同じ種類の株が、A/H3N2(香港)型とB型は異なる系統株が流行する可能性が高いと判断され、今年のワクチンには、A/H1N1(ソ連)型のニューカレドニア株、A/H3N2(香港)型としてウイスコンシン株に対応できる広島株、B型のマレーシア株(ビクトリア系統株に対応できる)を混合したものが用意されました

部署紹介



《 院内秘書課の皆さん 》

院内秘書課 マネージャー 佐藤 順子

院内秘書課は、一般の会社でいうと総務、庶務、人事労務、経理、用度、営繕等の業務を行っています。男性3名、女性4名と経営監理室の者1名、営繕関係2名が在籍しています。

現在、巽病院・巽今宮病院・巽介護老人保健施設と介護の各事業体あわせて420余名の職員が在籍しています。

巽病院として石橋に開業してから今年で60年になります。地元で「巽外科さん」と親しまれてきた病院ですが、平成7年に医療法人となり、事業内容も拡大し、院内のいろいろなことが急速に変化をしています。それに伴って組織も膨れています。その変化の中でより職員が業務を遂行しやすいように体制を整えることが院内秘書課の役目だと思います。

毎日、突発の事柄も多く大変忙しい部署ですが、みんなで協力して乗り切っています。

院内秘書課の職員は患者様と直接触れ合うことは少ないですが、職場環境を整え、職員が気持ちよく働けることが、ひいてはよりよい診療・看護・介護等につながることを考えています。

病気アラカルト



骨粗鬆症について！

整形外科 中尾医師

骨粗鬆症とは骨量が減少し骨の脆弱性をきたして全身の骨が折れやすくなった状態です。

日本では80歳以上の高齢者の半数以上が退行期骨粗鬆症(特に骨粗鬆を起こす他の原因がない場合)といわれています。

骨粗鬆となると転倒や腰に負担がかかることで容易に骨折を生じることになります。骨折が多い部位としては①大腿骨近位部(足の付け根)②腰椎、胸腰椎移行部(腰や背中の骨)③橈骨遠位端(手首)④上腕骨頸部(肩の周囲)があります。

高齢者に骨折が生じると寝たきりになることが多く、統計上は高齢者の寝たきりになる原因は1位が脳血管障害、2位が骨粗鬆症による骨折といわれています。

最近では骨粗鬆に対して種々の薬が開発されてきました。以前はいわゆるビタミン剤、カルシウム剤程度で実際に骨量を増やし骨折を予防するのは困難でした。最近はいわゆるビスホスホネートという薬(骨は常に吸収、形成ということを繰り返しています。その吸収に働いている細胞を抑えるお薬です。)が開発され有意に骨の吸収を抑制し、骨形成を促進することで骨を強くします。また女性の場合、ホルモンの関係からも骨が弱くなりがちでこれに対する薬も開発され有用であるとされています。

昨年当院で80歳以上の高齢者に行った骨折の手術は60件あまり(全体の約25%)で増加傾向にあるように思われます。骨粗鬆の検査は簡単でいつでも予約が可能です。今後ご自身や身の回りの高齢の方が骨折により寝たきりになる事が少しでも少なくなるよう骨粗鬆の検査を受け予防されることをお勧めいたします。